

## 第1回高知県教員育成協議会 指標についての委員意見への主な対応

	委員意見	委員名	対応
教諭	・③「児童生徒理解」の中堅期では児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力を育成する適切な指導方針を立てることができるとあり、発展期ではその言葉がなく、どう引き継がれているのかが分からない。	西本委員	③「児童生徒理解」の発展期に児童生徒の自己実現の支援に関する指標を追加する。
	・⑦「指導技術の工夫」の若年までは主体的・対話的で深い学びの視点、中堅期は教科等横断の視点となる。教科の専門力を身に付け、教科横断へとなっているが、教科横断の視点はどこの段階からも求められる。	佐古委員	⑥「授業構想」について、若年前期から教科の関連性を踏まえることを追加し、若年後期から教科横断の視点を追加する。 ⑦「指導技術の工夫」について、主体的・対話的で深い学びの視点で統一した指標とする。
	・⑪「ICTの効果的な活用」について、教育データを活用した学習の改善の感覚は、若年から必要ではないか。	長岡会長	⑪「ICTの効果的な活用」について、新規採用期から教育データを活用して授業に取り組み、若年後期から教育データを活用した学習の改善を図るよう指標に追加する。 また、項目名を「ICTと教育データの効果的な活用」とする。
	・⑮「業務遂行・進捗管理」では、ICT活用については、若年期の方がより使って、校務分掌のやり方を考えているのではないか。	西本委員	⑮「業務遂行・進捗管理」について、ICTを活用して校務分掌の業務を行うことを新規採用期の指標から追加する。
	・⑮「業務遂行・進捗管理」では、ICT活用は、若年期からは利用、中堅期から活用と書き分けられるのではないか。	濱川委員	
・⑲「自己啓発」について、国内外の変化に合わせたという文言が中堅期から入っている。若年期から入ってもいいのではないか。 ・⑲「自己啓発」の国内外の変化に合わせては、もっと具体的にすれば評価もしやすい。例えば、若年までは国内の情報、中堅からは国外の情報といったところ。似たような特徴の地域や発展的なところなどの情報を収集したらよい。	小島委員 廣瀬委員	⑲「自己啓発」について、新規採用期には教育に関する情報に、若年前期・後期は国内外の社会状況の変化に関する情報に関心をもち、中堅期以降は国内外の社会状況の変化に合わせた課題意識や探究心をもって研鑽することとした。	

	委員意見	委員名	対応
校長等	<p>・校長であるべき姿を教頭・副校長で身に付けて発展させていってはどうか。</p> <p>・高知県は校長になるために教頭研修にウエイトを置いた研修体系である。校長になるときは、すでに力が身に付いているとする指標にしてもよいのでは。</p>	<p>廣瀬委員</p> <p>佐古委員</p>	<p>国で示された校長に求める資質・能力については校長段階で一定示すこととし、副校長・教頭以下の段階においても資質・能力を追加する。</p>